

■ 概況

4/28～5/11のNYMEX・WTI先物市場は、99.76～109.77ドルの範囲で推移した。

5月12日は、この日、国際エネルギー機関(IEA)が月報で、経済制裁の実施・企業の購入の回避により、4月ロシアの産油量が約100万バレル減少したと報告、先行き需給ひっ迫感から、続伸した。ただ、中国上海の都市封鎖の長期化による経済停滞懸念もあり、上値は重かった。6月限の終値は前日比0.42ドル高の106.13ドル。

週末13日は、ウクライナ情勢に関連して、天然ガスを含めたエネルギー供給のひっ迫感の高まり、中国政府による上海都市封鎖の緩和・景気刺激策の発表を好感して、3日続伸、110ドル台を回復した。6月限の終値は前日比4.36ドル高の110.49ドル。

週明け16日は、中国・上海の規制緩和期待、ロシア産原油の供給不安から、4営業日続騰した。この日、ドライブシーズン入りを前に、米国の改質ガソリン先物が史上最高値を記録したことも値上がり要因となった。6月限終値は前週末比3.71ドル高の114.20ドル。

17日は、EUのロシア産石油禁輸に関するハンガリーの反対による禁輸協議の結論先送り、米国の対ベネズエラ経済制裁の緩和検討・シェブロンへのベネズエラ復帰検討の報道で、5営業日ぶりに反落した。前日高値の利食い売りもあったが、中国上海の都市封鎖の段階的緩和の報道が下値を支えた。6月限の終値は前日比1.80ドル安の112.40ドル。なお、この日のプレント先物終値は111.93ドルと2年ぶりに一時WTIが上回る逆転現象となった。

18日は、連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の金融引き締め発言を契機に、米国経済減速観測が拡大、米株式市場が暴落、ドル高が進行し、原油先物も続落した。先週末の米国原油在庫は減少したが、影響はなかった。6月限の終値は、前日比2.81ドル安の109.59ドル。

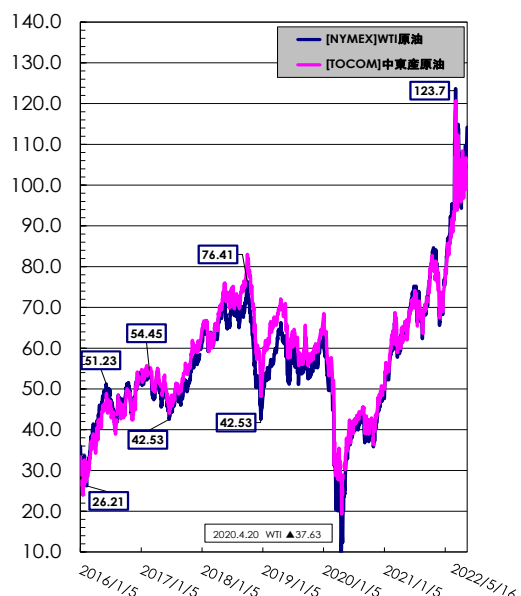
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(7月渡し)は、4月28日～5月11日の間、101.10～108.10ドルの範囲で推移した。5月12日103.80ドル、13日106.00ドル、16日107.10ドル、17日109.90ドル、18日108.00ドルで推移した。

為替は、4月28日～5月11日の間、128.86～130.78円の範囲で推移した。5月12日129.77円、13日128.90円、16日129.65円、17日129.29円、18日129.33円で推移した。

そのような中で、5月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値下がり、軽油も同0.6円の値下がり、灯油は7円の値下がり(18日ベース)であった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油も5週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は170.4円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は36.1円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/8～5/14	2,990 ▼ -195	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.7 ▼ -5.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/14	8,980 ▼ -1,144	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/16	103.43 ▼ -3.30	▲ 37.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/16	114.20 ▲ 11.11	▲ 47.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	108.37 ▲ 4.59	▲ 42.06
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	83,811 ▲ 5,037	▲ 38,111
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	122.95 ▼ -2.26	▼ -13.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/16	130.65 ▲ 1.13	▼ -20.20

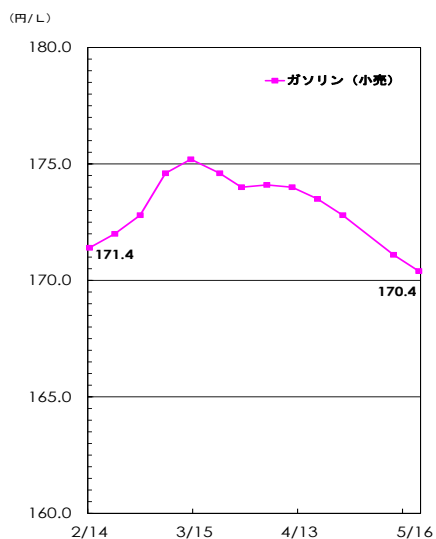
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	858 ▲ 21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	775 ▼ -44	▲ -	
	輸出	"	44 ▲ 2	▲ -	
	在庫	5/14	1,715 ▲ 39	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	73.9 ▼ -2.0	▲ 12.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	74.0 ▲ 1.3	▲ 14.9
		(TOCOM/中部)	5/16	75.6 ➡ 0.0	▲ 15.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	170.4 ▼ -0.7	▲ 18.6	

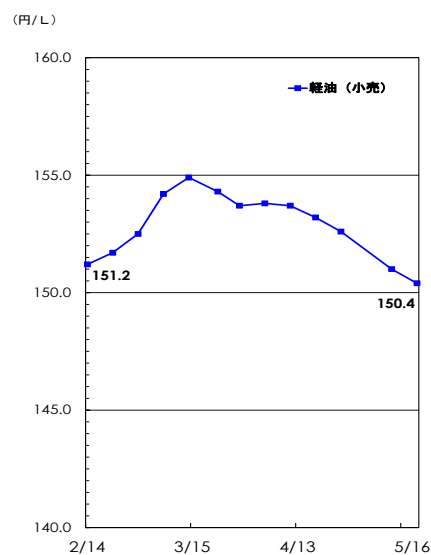
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

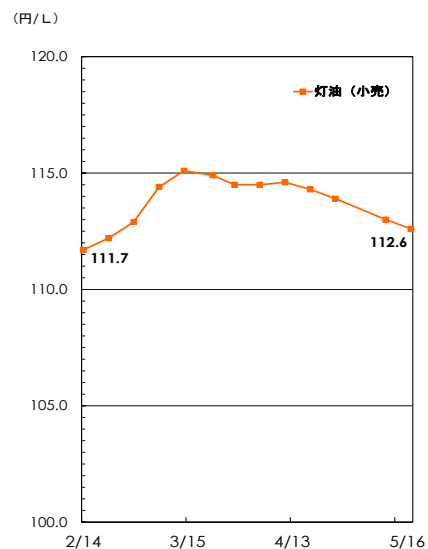
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	792 ▲ 94	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	531 ▲ 214	▼ -	
	輸出	"	108 ▼ -9	▲ -	
	在庫	5/14	1,639 ▲ 153	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	75.8 ▼ -0.6	▲ 12.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	90.1 ▼ -0.2	▲ 26.0
		(TOCOM/中部)	5/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	150.4 ▼ -0.6	▲ 18.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	124 ▼ -49	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	109 ▲ 41	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/14	1,304 ▲ 15	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	75.0 ▼ -1.0	▲ 11.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	76.2 ▼ -0.3	▲ 17.4
		(TOCOM/中部)	5/16	73.9 ▼ -2.1	▲ 11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	112.6 ▼ -0.4	▲ 19.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月18日のNYMEX先物原油は、連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の金融引き締め発言を契機に、米国経済の減速観測が拡大、米株式市場が暴落し、投資家心理が冷えるとともに、ドル高進行で原油先物の割高感もあって、原油先物も続落した。先日からの高値による利食い売りもあった。先週末の米国原油在庫は減少したが、影響はなかった。また、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末(5月13日)時点の米国石油在庫週報で、原油在庫が市場予想に反する取り崩しだったが、ドライブシーズン前に製油所稼働率も上がっており、相場に影響はなかった。6月限の終値は、前日比2.81ドル安の109.59ドル、7月限は2.59ドル安の107.04ドルだった。

EIAによると、5月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比16.3セント値上がりの1ガロン4.491ドル(150.5円/ℓ)、ディーゼルは同1.0セント値下がりの5.613ドル(193.5円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは5週ぶりの値下がりとなった。

ペーカーヒューズ社5月13日発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比6基増の563基と8週連続増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年5月8日～5月14日に休止したトッパー能力は32.3万バレル/日で、前週に対して28.8万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は299.0万klと、前週に比べ19.5万kl減少。前年に対しては59.1万klの増加。トッパー稼働率は77.7%と前週に対して5.1ポイントの減少、前年に対しては15.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.5%増、ジェット/17.0%減、灯油/28.4%減、軽油/13.6%増、A重油/13.3%増、C重油/10.0%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比2.9万kl減)。軽油の輸出は10.8万kl(前週比0.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は77.5万kl(対前週5.3%減)と3週振りに減少した。ジェット6.0万kl(対前週17.0%減)、灯油10.9万kl(対前週59.7%増)、

軽油53.1万kl(対前週67.6%増)、A重油19.2万kl(対前週139.9%増)、C重油19.7万kl(対前週49.1%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/8 ~ 5/14)	前週 (5/1 ~ 5/7)	前週比
ガソリン	775	819	▼ -44 (-5%)
ジェット燃料	60	72	▼ -12 (-17%)
灯油	109	68	▲ 41 (60%)
軽油	531	317	▲ 214 (68%)
A重油	192	80	▲ 112 (140%)
C重油	197	132	▲ 65 (49%)
合計	1,864	1,488	▲ 376 (25%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月14日時点の在庫は、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは171.5万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては31.1万kl少ない。

灯油は130.4万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては18.8万kl少ない。

軽油は163.9万kl、前週差15.3万kl増。前年に対しては30.6万kl少ない。

A重油は72.1万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては3.9万kl少ない。

C重油は174.9万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては26.5万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (5/14)	前週 (5/7)	前週比
ガソリン	1,715	1,676	▲ 39 (2%)
ジェット燃料	826	821	▲ 5 (1%)
灯油	1,304	1,289	▲ 15 (1%)
軽油	1,639	1,486	▲ 153 (10%)
A重油	721	751	▼ -30 (-4%)
C重油	1,749	1,738	▲ 11 (1%)
合計	7,954	7,761	▲ 193 (2.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月10日～16日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、元売会社の原油コストは、3.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額34.7円を加えたコスト上昇額31.7円に、補助金36.1円(計算上37.2円になるが、35円を超える値上がり分は半額支給)が支給されることから、

次週(5/19～5/25)の元売会社の実質的な卸価格は4.4円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月10日～16日の製品スポット市況は、4月26日～5月9日平均と比べ、先物・ガソリンの値上がりを除いて、他の全て取引・油種で値下がりした。

直近週(5/10～5/16)の陸上スポット価格平均値は、前週・前々週(4/26～5/9)比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/10～5/16)に、前週・前々週(4/26～5/9)比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は2.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (5/10～5/16)	前週 (4/26～5/9)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	73.9	75.9	▼ -2.0
	灯油	75.0	76.0	▼ -1.0
	軽油	75.8	76.4	▼ -0.6

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (5/10～5/16)	前週 (4/26～5/9)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	74.0	72.7	▲ 1.3
	灯油	76.2	76.5	▼ -0.3
	軽油	90.1	90.3	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/10～5/16実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -2.0	▲ 1.3	▼ -0.3	
灯油	▼ -1.0	▼ -0.3	▼ -0.7	
軽油	▼ -0.6	▼ -0.2	▼ -0.4	
A重油	▼ -1.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円安の170.4円、軽油も同0.6円安の150.4円、灯油は18%ベースで同7円安の2,027円(1%ベースでは同0.4円安の112.6円)。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油も5週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは4県、横ばいは1県、値下がり42都道府県だった。全国最安値は埼玉県の164.4円、その次は岩手県の165.1円であった。他方、最高値は長崎県の181.7円だった。最も値上がりしたのは愛知県(前週比1.1円高)で、横ばいは高知県、最も値下がりしたのは和歌山県(同2.3円安)だった。

次回調査時(5/23)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (5/16)	前週 (5/9)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	170.4	171.1	▼ -0.7	08/8/4 185.1
	灯油	112.6	113.0	▼ -0.4	08/8/11 132.1
	軽油	150.4	151.0	▼ -0.6	08/8/4 167.4

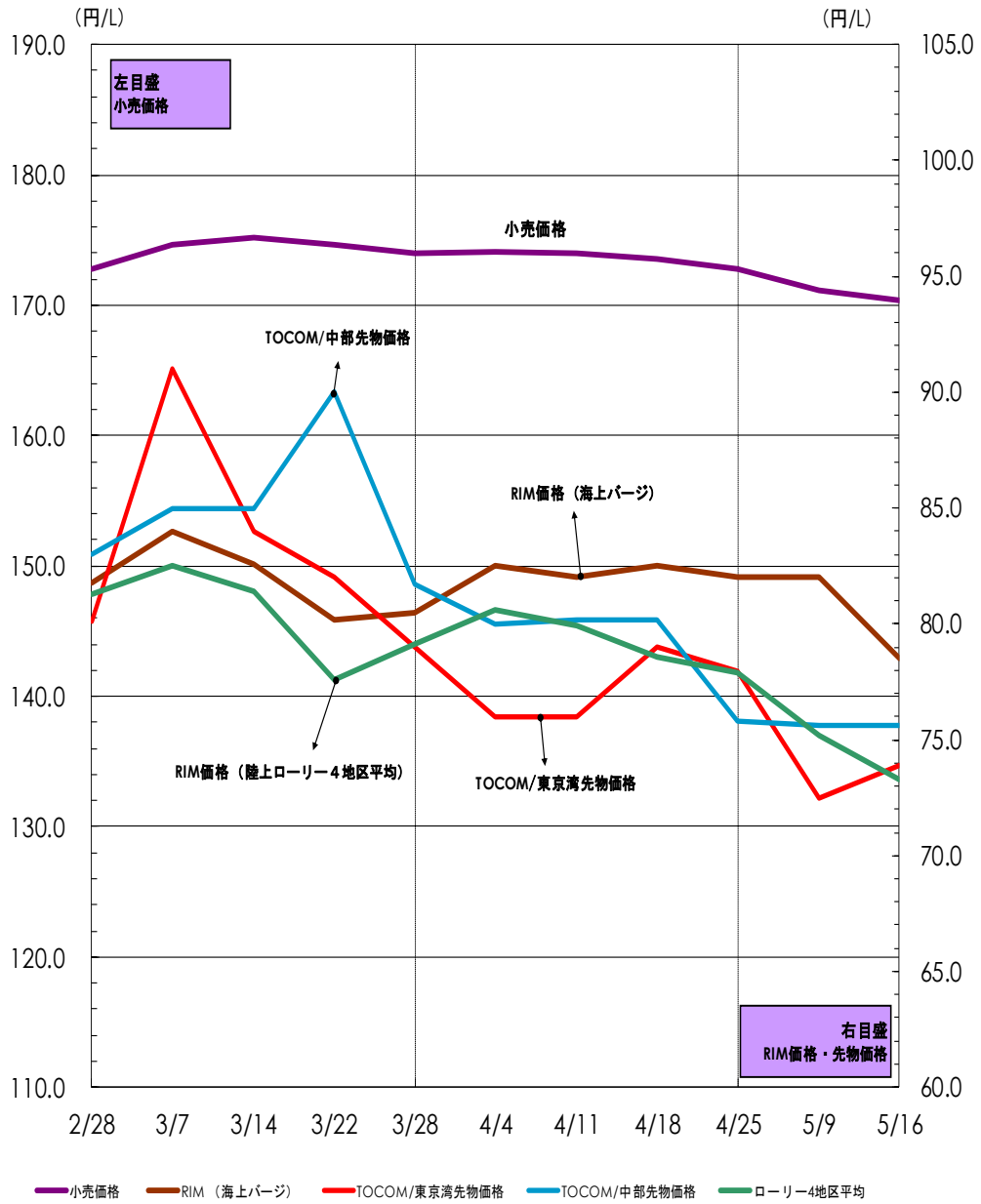
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/2/28 ~ 2022/5/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第8号)の公表は、5/27(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。